

信州昆虫資料館報

No. 4

2009-6



昆虫資料館の歌

信濃のまなか あおき里
三重なす古塔 見返りて
仰ぐ十観 峰高し
山には映ゆる 資料館

館の使命と 問われなば
「人虫共棲」 これのみぞ
重き使命を 胸に秘め
実りを目指す 資料館

標本資料 みないのち
数を集めて 質を練る
ゆくては遙か 遠くとも
たゆまず進む 資料館

おちこち集う わが友よ
天与の恵み 昆虫を
究める気概 養いつ
共に歩まん 資料館

(2009.6 T.O.)

ハチ刺されの意外な危険性

館長 小川原辰雄

ハチ刺されの症状はハチ毒そのものの薬理作用によるものと、ハチ毒抗原と抗ハチ毒 IgE 抗体による抗原抗体反応の二つがある。前者では刺された局所の激痛、発赤、腫張等が見られる。

後者の場合には、全身性のアレルギー反応を示す。そのうちもっとも多いのは蕁麻疹であるが、少数例ながらアナフィラキシーショックがあり、その対応は急を要する。

これらとは別にもうひとつの危険がある。それは誤ってハチを飲み込んでしまった場合である。野外で缶ジュースを飲むとき、飲み残した缶内にハチが侵入していて、それを知らずに残りを飲み乾すような時に起こり得る。口腔内に飲み込まれたハチに上気道を刺されると、粘膜の腫張によって気道の狭窄が起こり呼吸困難におちいる危険性が大きい。古い文献にこのような症例の記録があったので、その内容を紹介して御参考に供したい。

フランス革命もまじかに迫った1781年、パリの書店で出版されたピエール・ジョセフ・ビュショ著「害虫記」に書かれた悲惨な実話である。藤野邦夫氏の邦訳を引用させて頂く。

「オルレアンから3リュウ（1リュウは約4キロ）の地点にあるルブラシオンで、夕方（1774年）一日の仕事に疲れて帰宅した若者が気分をかえるため新しいワインを飲んだときのことであった。そのとき使ったグラスの中に、スズメバチが一匹落ちていたのだが、彼はそれに気がつかなかったのだ。あつというまに飲み込まれたスズメバチは、彼の口蓋を刺したのである。彼はすぐにハチをつまみだすだけですませ、しばらくすれば辛抱強く耐えた痛みが消えうせるだろうと考えた。だが、その日の夜になって痛みは激化し若者はベッドから起き上がって救いを求めたのだ。そしてたどりついた司祭の地所で命を失ったのである。」

長い引用になってしまったが、生ま生ましい表現が恐るべき事実を伝えている。この症例は時間的経過からみてもアナフィラキシーと言うよりは上気道粘膜の腫張による気道狭窄と思われる。喉頭浮腫も考えられないではないが、この事実は、平穏であるべき日常性の中にも思わぬ危険性のあることを示している。

缶ジュースの空き缶にはハチが好んで寄ってくる。彼らにとって好ましい飲み物であることは明らかだ。野外で缶ジュース等を飲むときにはこんな危険性のあることを思い出して頂きたい。ハチの活動もようやく活潑になるこの季節に、一言警告を發しておくのもあながち無駄な気づかいとは言えないような気がする。

引用文献：ピエール・ジョセフ・ビュショ、藤野邦夫訳：害虫記、博品社、1995

この本は、当館昆虫図書室に2冊所蔵しておりますから御来館の折にでも御覧ください。

信州昆虫資料館の見どころ

顧問 安藤 裕

1. 標本展示室

信州のチョウについてのコレクションは極めて充実しており、チョウの愛好家には、満足していただけます。東信地方のアブ・ハエのコレクションは、日本有数のもので、衛生昆虫研究のための、最も重要な学術標本です。

2. 図書室

オーナー小川原館長コレクションの、昆虫書籍・文献資料（子供向けのものも含む）が、2,500 点余り所蔵されています。そして、自由に閲覧できる開かれた図書室なのです。その中にひととき目立つ大きな本がありますが、オランダのジョン・スワンデルダム（1637～1680）著「昆虫の自然史」です。1682 年にライデンでラテン語で出版され、1758 年にロンドン英訳出版されました。館にあるのは英訳のもので、近世に科学としての昆虫学の基礎を築いた名著で、顕微鏡による昆虫の成長と変態の研究は、特に有名です（スワンメルダムは、カエルの赤血球をはじめて発見した生物学者）。わが国では、京都大・筑波大等の図書館に貴重図書として所蔵されています。中世英語の文語体で書かれているので、興味のある方は 2・3 行でも読まれてみたらいかがでしょうか。



3. 山田靖昆虫画展示室

2007 年 8 月にオープンした山口県岩国市の山田靖さんの昆虫画展示室は、多くの皆さんに閲覧していただけてきました。2008 年 3 月～4 月にかけて、青木村郷土美術館と岩国市市民ギャラリーで、大きな展覧会が開催され、両県の多くの皆さまに見ていただくことができました。慈愛溢れる山田さんの昆虫画作品をどうぞ多くの方に観ていただけますよう、お願いいたします。

マダラヤンマの調査について

マダラヤンマ保護研究会 副会長 小野 功

美しいマダラヤンマを追いかけて2年が経過し、益々そのとりこになっている。平成18年2月に、マダラヤンマは上田市の天然記念物に指定された。このきっかけになったのは、上田市ことぶき大学大学院理系2回生の有志による卒業論文に取り上げたことによるとのこと。4回生であった私たちは、安藤先生の講義を通じて知り、マダラヤンマがどのようなものか大変興味を持った。その年(平成19年4月)マダラヤンマ保護研究会が、事務局を信州昆虫資料館に置き、設立された。

私たち理系大学院4回生は趣意に賛同し、20名全員設立と同時に入会した。マダラヤンマがどのような所で生息しているか調べてみようということになり、有志5名が卒論のテーマに選び5月から調査に入った。6月末までは10日に1回、7月から1週間に1回に頻度を上げ11月まで調査観測を行った。マダラヤンマとの出会いはギンヤンマの誤認から始まった。6月の下旬マダラヤンマと思い込み喜び勇んで、安藤先生に見てもらったところ「違いますよ、これはギンヤンマです。」と一蹴されました。お盆過ぎ8月22日ついに本物のマダラヤンマに出会った。その後この美しいマダラヤンマの姿、飛翔のとりこになり朝から晩まで時間の過ぎるのを忘れ見入ったこともあった。昨年も(平成20年)10名で調査観測を継続した。

調査観測を続けていくうちにマダラヤンマの生息する池が、いかに地理的条件と自然環境に恵まれているかが徐々にわかってきた。(平成19年度上田市天然記念物マダラヤンマ調査報告、平成20年度上田市天然記念物マダラヤンマ生態調査参照)

今年(平成21年度)のマダラヤンマの調査観測は3年目に入る。2年間の経験と実績により見えてきたものが沢山ある。今年はこれをより鮮明にし、マダラヤンマの保護と自然環境の維持のため予定を立て実行する。

調査池 - 砂原池、イモリ沢大池、藤田池、斉藤池

調査項目

1. 植物類、昆虫類、プランクトン、魚介類、野鳥の調査
2. マダラヤンマ羽化の観察
3. マダラヤンマの保護パトロール
4. 塩田地域にある池の調査(マダラヤンマ生息の可否)

観察期間 - 平成21年5月～11月

観察日は毎週火曜日、農業構造改造センター9時集合

調査員 11名

マダラヤンマ保護研究会は設立後2年経過、会員及び下之郷みどり守り隊、富士山

水土里会の協力による保護パトロールの実施、観察調査の活動等により一定の成果が上がっている。それは不法採取者を見かけなくなり、マダラヤンマの増加を見たことである。しかしながら地域住民の認知度はイマイチである。次のステップとして塩田地域自治会や教育機関とのコミュニケーションを画りマダラヤンマの保護と自然環境の維持に努めたい。

(H21. 5. 24)

信州昆虫資料館見学

—— 長野計器㈱OB会機関紙「社友」H20.10月号掲載記事より ——

ウォーキング同好会 早川慶寿 (マダラヤンマ保護研究会副会長)

社友会夏祭り ウォーキング報告

7月27日に行われた、社友会夏祭りに女性3名、男性2名で青木村にある信州昆虫資料館に行ってきました。1時にユウメイト駐車場を早川の車で出発し、途中で参加者に乗っていただき2時に信州昆虫資料館に着きました。

当日は天気が悪く当初予定していた林間の散策は中止となってしまう、昆虫資料館の見学のみとなりました。展示品は、県内外の昆虫標本展示、世界の蝶展示、山田昆虫画展等を見学し又、大変幸運なことに特別展として当ウォーキング同好会の柳澤幸子さんの所属しています「上田自然に親しむ会」(矢島千代子代表)の「十観山の草花たち写真と押し花展」と、上田市石神の龍野隆彦氏の昆虫写真展(8月30日付けの東信ジャーナルにて紹介されている)を見学することができました。見学の後、資料館のご好意で美味しいお茶とお菓子をいただいて、3時30分資料館を出発し、途中で一時車の前が見えなくなるほどの豪雨に会いましたが、無事に夏祭り会場の戸倉会館に着きました。

ここで信州昆虫資料館のご紹介をさせていただきます。

信州昆虫資料館は青木村田沢の十観山中腹の標高1,000メートル地点にあり、旧JA信州上田経営の温泉付宿泊施設の閉館後、その施設を蜂さされの研究で知られる地元青木診療所長の小川原辰雄医学博士が譲り受けて、すべて自費により平成15年に開館したもので、常設展示として多くの方から寄贈された県内外の昆虫標本や世界の蝶の標本数千点と2,500冊に及ぶ昆虫図書を備え、一般公開しており、特に今年は信濃毎日新聞等で紹介された山口県岩国市の農民画家、山田靖氏の昆虫画展示室を増設しました。昆虫研究者はもとより、一般の昆虫愛好家の関心が高く、一般の人を対象に標本づくり、自然観察会、遊歩道散策、別所温泉の宿泊客等を対象に夜間昆虫観察会などを行っております。又特別展示も行われます。大変素晴らしい資料館ですのでぜひ一度、見学してください。

信州昆虫資料館友の会が設立されました

会長 桜田 義文

本年四月十八日、今シーズンの昆虫館オープンにあわせて友の会が設立されました。当日は午後二時から友の会設立総会が開催され、規約案が承認され、役員が選出されました。その後、出席者の自己紹介を兼ねて、友の会に対する各自の想いや期待を発表していただきました。その内容は、要約すると次の五点でした。

- 一、昆虫館を愛する人たちの楽しい集いの会にしたい
- 二、昆虫が棲め、人が集まる自然環境を保全・整備したい
- 三、昆虫館の活動の支援（広報活動・イベント支援など）をしたい
- 四、昆虫館グッズの制作・販売をしたい
- 五、昆虫観察や植物観察・登山などの体験学習会をしたい

各自の友の会に寄せる想いは多岐にわたることがわかりました。そこで、当面は間口を広くし、はじめからアクセルをいっぱい踏まず、慣らし運転をしながら方向を探っていくことにしました。

手始めに五月六日に昆虫館周辺の草刈と花見を開催しましたが、あいにく雨天のため花見だけを館内で開きました。飲み物、つまみ持参で通知しましたが十数名の参加があり楽しく懇談できました。

今回は、六月の二十一日に昆虫館が企画している「自然観察会」を友の会との共催で開催し、昆虫の食草についての勉強会をしたいと考えています。昆虫館の敷地は約三万坪ありますが、この豊かな自然環境を昆虫の高原として保全するため欠かすことができない基礎的な研究ですので、その方面に詳しい会員の指導をいただきながら高原を散策して勉強し、今後の自然環境保全活動の出発点にしてゆきたいと思います。

当面の役員は発起人の中から設立総会で選出された次の者たちがすすめてゆきますのでよろしくお願いします。

{友の会入会ご案内} 一年間 大人一人千円 ご夫婦は二人で千五百円

特典 昆虫資料館の入館料が無料になり、各種行事のご案内を出します。

連絡先	入会窓口	事務局長、各役員または信州昆虫資料館
	会長	桜田 義文 (青木村 田澤) 0268-49-2214
	副会長	宮原 文男 (上田市 武石) 0268-85-2136
	副会長	北村 政夫 (青木村 当郷) 0268-49-2313
	会 計	沓掛 正一 (青木村 村松) 0268-49-3701
◎	事務局長	宮本 修 (青木村 田澤) 0268-49-3666
	事務次長	沓掛信雄 (青木村 村松) 0268-49-3424

感謝一念☆2009

館長代理 野原未知

昨年の館報は、山口県の山田靖昆虫画展へのプロセスや、青木村郷土美術館と岩国市市民ギャラリーでの様子などのレポートで終始した。2004年4月に正式オープンとなった昆虫資料館だが、館報を発行したのは2006年からである。ご存知のように、館長の蔵書と日本昆虫協会長野支部からの寄贈標本を元に、館はオープンした。

その後、顧問の安藤先生からジョン・スワンメルダムの「昆虫の自然史」や各論文の別刷りを多数寄贈され、他にも何人かの方々の寄贈本をいただいている。

来館の方々からよく尋ねられるのだが、私が昆虫資料館の仕事に携わるようになったのは、チョウの写真家栗田貞多男氏の紹介による。20代の頃栗田氏の「クリエイティブセンター」に入社していたので、仕事上おのずとチョウや虫を知ることになり、退社後も長野市大峰城のチョウの博物館（長野市）・戸隠昆虫自然園（山口文男氏）・須坂市の蝶の民族館（今井彰氏）などの設立に携わった。小川原先生の書籍文献の整理と昆虫図書の分類を頼まれたのは、はるかその後のことである。

ひと夏かけての蔵書分類整理も終わりかけた頃、昆虫資料館のお手伝いを依頼された。「あの空き地になっている辺りなのだけれど…」と先生が指差す彼方は、そびえる里山のかなり上の方で、まあい空き地はパラグライダーが跳ぶところだ。およそ常日頃人が往来するような処には見えず、これは先生、ちょっと私をからかっておられるかな？と思い「本当はどこなんですか？」と何度も詰め寄ったものだったが、いよいよそれが本当の事だと分かったときは、しばし頭を抱え込んでしまったものだ。

時間の経過というものありがたいもので、まる6年も経った今では笑い話になりつつある。

開館時期は4月中旬から11月末まで。(本年から休館日が月・火曜日)

毎月の自然観察会と夏の夜間昆虫観察会、さまざまなエキスパートによる講演会、コンサートやお話し会など、あるいは館周辺の植物や虫の写真展、工作や標本教室、隣粉転写教室などを盛り込みながら、毎年工夫を凝らしつつ開催してきた。

お世話になった講師・インストラクター・音楽家・スタッフの延べ人数は計り知れず、その友情や愛情に心から頭の下がる想いである。特にスタッフやボランティアのみなさんには、お力を頂きっ放しである。そのかけがえのない労苦をいただいてこそ成り立っている昆虫資料館が、地味なれど楽しい処になるようにと、祈りつつ過ごす日々である。

なお、上田市塩田・下之郷・富士里地域等に生息しているマダラヤンマが上田市の天然記念物に指定（H18.2）されたのをきっかけに、安藤先生や地元の皆さんとが地道に調査を続けた結果、かなりの動植物相が確認された。H19年には、マダラヤンマ保護研究会の設立総会が開かれた。会長は安藤先生、顧問は小川原先生である。

以後、地元の皆さんや会員による調査・研究・パトロールが継続されており、本年3月には、「平成20年度 上田市天然記念物マダラヤンマ生態調査」が刊行された。

これは、塩尻市自然博物館 紀要第11号に載っており、別刷りが当館にも置いてあるので、興味を持っていただけたらと思う。マダラヤンマの発生を通して、自然環境に目を向けていかれる皆さんの姿が頼もしい。水土里守り隊、ヤマンバの会の皆さま方もマダラヤンマの棲息地を守ろうと、地域の連携プレーが成されているようで、素晴らしいことだと思う。大きな成果がもたらされていく様子を、昆虫資料館としてしっかり取材しておきたいと思う。

さらに山口県岩国市の山田靖氏寄贈の昆虫画に関しては、岩国市・青木村の暖かい共感がなかったら成立しないような大きな展覧会を、昨年春両市村で開いていただいた。山田さんがひたすら描き続けてきた虫が繋ぐ、かけがえのない人の情。

この絵は、描いて売り出すための気持ちで制作されたものではない。余りある虫への慈愛が、山田さんの手を通して滲み出てきた一点一作であり、命の限りを尽くして表現されてきた「いのちの絵」である。私たちは、そういう作品に出会えたことを誇りに思うものである。この2月、元気に91歳になられた山田さんが現在、奥様が入っておられる病院に入院されているとのことだ。一日も早く退院されることを願う。・・・おそらくベッドの上でも鉛筆を持っておられるだろうけれど。

なお本年7月に、岩国市の隣の和木町で山田さんの作品展を計画して下さった。

大きなイベントを組む労苦を承知で進めて下さっていることに、心から敬意を表するものである。岩国市の皆さん、和木町の皆さん、この作品展が成功しますようにお祈りくださると嬉しい。そしてどうか観に行ってください。私も初日には会場におりますので、再開できることを楽しみにしています。

6年の間に、次の方々から標本の寄贈等を頂いている。チョウ：鈴木繁男氏（青木村）・岡本裕彦氏（横浜市）・小泉真人氏（横浜市）・中島俊樹氏（長野市）・名取健一氏（長野市）。アブ：故清水明氏（上田市）・ハエ：故清水芳雄氏（上田市）。名取さんのコーナーは本年度中に設置するが、他の皆さんのコーナーはすでに皆さんにご覧いただいている。

また昨年、館の一室で、自然に親しむ会の皆さんによる「信州昆虫資料館周辺の植物写真と押し花展」を館で開催。本年春先にはさらに20点を加えて青木村図書館でも開催していただいたが、その全作品の寄贈を受けた。里では見られない山野の草花、シダ類、樹木など、調査のデータがしっかりしており、コメントも分かりやすく、館の宝物になった。上田・群馬・埼玉の、探蝶会の皆さんによる素晴らしいチョウの写真も寄贈いただいた。いずれも、時々企画展の形で紹介させていただこうと思う。スズメバチの巣など、何人かの皆さんが持参くださった。自然観察会には、ぜひ一緒に歩いていただきご指導願いたい方々である。

本年は、4月18日に春のオープンをした。オープン前に、麓の中村区育成会の皆さんが、行事ごとの後、登ってきてくださった。私が住まわせていただいている地域なので、顔見知りの子供やお父さんお母さん方もおられ、とても嬉しかった。図らずも業者が来ていたり、打ち合わせや整理事が重なってしまい、ゆっくりお話しするつもりができなかった。申し訳なかったなあと反省しつつもすでに6月も半ばになる。

村の観光大使でもある北村氏が、以前の仕事上仲間や関係のあった埼玉県の皆さんを、昆虫館にご案内くださっている。村の姉妹都市である埼玉県菖蒲町の皆さんもおられる。本当にありがたい。

昨年「アメリカ・オハイオ州シンシナティーに桜並木を！」という有縁の方からの呼びかけに、館でも1本の桜を寄贈させていただいたが、本年桜の頃に、シンシナティーから4名の方々が上田へお礼に見えた。東京・名古屋・京都・大阪と各地を訪ねられたそう。懇親会に参加させていただいた。シンシナティー市立公園管理局の自然環境保護・美化・国際交流担当部長、ジェラルド・R・チェコ氏とはかたこともままならぬながら、地球の現状を憂う話をした。そのチェコ氏からお便りをいただいた。

上田城址公園の樹齢何百年も経った桜並木に感動されたこと・未来のこどもたちのために大切に育てていきたいことなど、感謝の意を伝えられた。シンシナティーでは、毎年「チョウ展」を開いている。去年はインドのチョウ、今年は中国のチョウ。そして何と来年は日本のチョウ年にあたるとのこと。

「2010年日本のチョウチョ展」(4月～6月)を、一緒に祝えますようにと。

偶然とはいえなんと素晴らしい展開かと、びっくりである。その頃アメリカに旅される方々は、是非シンシナティーに足を運んでいただければ幸いである。



過日5月30日には、上田地域ふるさと活性化事業で「親子ふれあいトレッキング」の皆さんが大勢見えて見学された。6月6日は舞田のおひさまクラブの保育園生♪、8日には村の小学4年生。こどもたちの歓声と、森中の鳥と春ゼミと虫たちがいっせいに響きあう。一匹の野うさぎの子が飛び出して、それを目ざとく追いかけるトンビ。閑静な森のようで、生きものたちの賑わいに満ちた空間である。

4月18日に、友の会の設立総会も行われた。

昨年6月発足の「アピスの会」（安藤先生のゼミナールの仲間でもあり、同時にマダラヤンマ保護研究会の仲間でもある皆さんによる、6名のボランティアの会）を母体として、この春村にお住まいの方々を役員に、広く内外の多くのみなさまとともに改めて「信州昆虫資料館友の会」として発足された。

本当にありがたいことだと思う。

感謝一念の2009年、よろしくお願いします。

以下、6月以降の館のスケジュール。

●	6. 21 (日)	am 10時～	自然観察会 (お弁当持参)
●		pm 2時～	講演会「ハチ刺されに注意！」
●			ドクター小川原館長による講演
●	7. 31 (金)	pm 8時～	夜間昆虫観察会 ライトトラップなど
●	8. 1 (土)	pm 5時～	丸川尚子 歌のコンサート
●		pm 8時～	夜間昆虫観察会 ライトトラップなど
●	8. 7 (金)	pm 8時～	夜間昆虫観察会 ライトトラップなど
●	8. 8 (土)		同上
●	8. 21 (金)		同上
●	22 (土)		同上
●	9. 20 (日)	am 10時～	自然観察会 (お弁当持参)
●	9月上旬～10月上旬		ヘルマンヘッセ昆虫展 (マロニエ昆虫館) 会期中、マロニエ昆虫館の新部氏と、語り部伊藤忍さんによる虫のお話しの 日を設けます。お問い合わせください。
●	11月		ありがとう会

★ 講演・標本作りなど入る可能性があります。詳細はお問い合わせください。

★ 表紙写真は倉島今朝松さん（上田市住吉在住）

文責 野原未知

〒386-1601 青木村田沢 1876-6 信州昆虫資料館

tel 0268-37-3988 fax 37-3988

e-mail kontyu-s@ypost.plala.or.jp <http://www13.plala.or.jp/kontyu/>

